

【お役立ち情報】

コロナ禍による地域福祉

コロナ禍でも、思いやり、つながり、支え合う方法を考えて

コロナウイルスは未知の感染症。どう対処することが正しいのか、まだ誰もわかりません。感染症である以上、人との距離を保つことが有効であることは間違いありません。不要不急の外出を控えることが叫ばれ、「人と一切関わらないことが正しい」と誤解されてしまいました。結果として、私たちはあらゆる歩みを止めてしまい、地域の様々な居場所が失われ、普段から孤立しがちであった人はますます孤立し、元気だった高齢者の健康も脅かされることになってしまいました。

しかし、多くの地域活動をされている皆さんは、心配な人やさびしい思いをしている人を放っておけないと、次第に動きはじめました。集まって会食することは難しくても、人数を減らしたり、野外で実施することで集まれる方法はないだろうか。会食を配食に変えて見守りをしたり、手紙を書いて気にかけていることを伝える方法はないだろうか。

様々なアイデアが生まれ、実践されています。地域福祉活動は、同じ地域で暮らす住民同士が、思いやり、つながり、支え合う活動。コロナ禍で困難な状況にある人を思いやることで、皆さんがつながる方法を工夫し、支え合っているのです。

もちろん、再開だけが正解ではありません。地域には色々な事情から今は一歩を踏み出せない方もいらっしゃると思います。色々な思いを大切しながら、困っている人を思いやり、つながる方法を工夫し、支え合う方法を一緒に考えていきたいと思っています。



同志社大学社会学部教授
永田 祐さん

生活支援コーディネーター ひと言メモ



新型コロナウイルス感染症により、地域福祉活動が止まってしまうと思いましたが、地域活動をされている皆さんはコロナ禍でも「今できる活動」と動き始められました。

ある日、地域に出向いた際に、このような話を聞きました。「コロナ禍で集まれないけど、いつも通りできないけど、「手紙」を持って各家に届けたよ！」少しだけみんなの顔が見れて良かったとのことでした。

新型コロナウイルスという誰も経験したことのない中で、地域の皆さんの活動の素晴らしさに改めて気づかせていただいた1年でした。

【問合せ先】

豊岡市社会福祉協議会 地域福祉課 生活支援係
生活支援コーディネーター

TEL：23-2573 FAX：24-4511

※生活支援コーディネーターは、業務用携帯を所持していますので、気軽にご相談下さい！！

【豊岡市生活支援体制整備事業】

創刊号

とよおか・ささえあい 便り

豊岡市社会福祉協議会 地域福祉課

生活支援係 発行 電話 23-2573



この度、生活支援コーディネーターの活動や地域・企業・団体等の皆さんの地域福祉活動を発信していくために「とよおか・ささえあい便り」を作成しました。生活支援コーディネーター等の活動やさまざまな情報（地域・企業・団体の活動やお役立ち情報）を発信できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



とき ひろかず
時 大和
(担当：日高)



いとう はるか
伊藤 遥香
(担当：城崎・竹野)



うじょう きょうこ
宇上 京子
(担当：但東・出石)



ありま たつろう
有馬 達郎
(担当：出石)

生活支援コーディネーター

しぶや まさし
渋谷 将司
(担当：豊岡)



私たちは
地域の福祉活動を
応援します！！



こだに りょうた
小谷 亮太
(担当：豊岡)

豊岡市社会福祉協議会では、平成 27 年度から生活支援コーディネーターを配置し、地域（地区・行政区等）や企業・団体等の地域福祉活動を応援しています。

地域に伺い、地域の皆さんの声（こうなったらいいのに、こんな課題がある等）を聞き、活動を知り、豊岡がより良い地域となるように皆さんと一緒に考え、サポートします。

【参考】

生活支援コーディネーターは、地域の支え合いを推進する役割のもと法律に基づき設置されています。豊岡市では「地域福祉活動を推進すること」を目的とする豊岡市社会福祉協議会が業務を行っています。



Point 地域のさまざまな場面で

生活支援コーディネーターが活動しています！

話し合いによる活動支援①

▲定期的な話し合いや情報共有を重ね、地域について語る（城崎）

高齢者が増えているから「見守り」が大切！



活動に向けた支援

▲研修や事業等を通して、地域の良いところ、課題の把握（福住）



具体的な取組み支援①

▲地域のつながりづくり、仲間づくり【出張サロン】（八条）

ステップ①

地域を知る

ステップ②

皆さんと話し合い

地域の力合わせの場づくり

ステップ③

皆さんと取組みを考える

ステップ④

皆さんと一緒に実践



移動問題で、困っている人がある！

話し合いによる活動支援②

▲話し合いによって、地域福祉活動の取組み協議（清滝・高橋）



具体的な取組み支援②

▲買い物支援に向けた取組み【移動販売調整】（竹野）

「こんな地域だったら子どもから高齢者まで、障がいがあっても、安心して暮らせる」。そんな地域づくりを皆さんと話し合い、できることを考え、活動していくことを一緒に進めています。

とよおか支え合い「この人」「この活動」に注目！ 目が離せない！



今回紹介するのは但東町資母地区の岩吹和弘さん。普段は「ヘアサロン IWABUKI」のマスター。資母まちづくり協議会 暮らしづくり部の部会長を務めている。

日頃から散髪店を通じて、また様々な機会に「気になること」をキャッチし、コミュニティ組織事務局や部会員、関係者に投げかけ、活動にまとめあげる。その発想がすごいと皆が口をそろえて語る。その魅力は何か？

岩吹さんに話を伺うと「いろいろと困り事は出てくるけど、エ〜方法がないかなぁとみんな話し合い、知恵を出し合っている」と話された。

Q:活動のきっかけは？

A：日頃から生活の困り事を聞くことが多かった。空き家対策を始めたら、近隣の手助けのもと生活をしている高齢者が多く、人と人とのつながりが大切だと気付いた。しかし、遠方の子もたちには普段のご近所の関わりが伝わっていないから、地元とのつながりがますます薄くなる。空き家になってからでは遅い。今ではつながりを絶やさないためにも、離れて暮らす子どもさんに3か月に1度、広報紙「しゃってもシボ!」「だんにゃあ〜」を発送。これらの経験から、人と人とのつながりの大切さが、様々な活動につながっていると語る。



仕事の合間に活動を見守る岩吹さん in 見守り訪問

Q:皆さんとの関わり方や協力してもらう工夫は？

A：情報の共有が大切。地域の皆さんも様々な意見を持っている。今年はコロナ禍で従来の交流ができなかったが、皆さんの発想で、城崎中学生有志作成のマスク等を届ける「見守り訪問」を行ったり、あれよあれよと河合美智子さん夫婦等と「しほ笑学校」を開校して健康・移住等、様々なテーマで啓発を実施。

「①あまり難しいことを言わない・しない ②みんながやりやすいように無理が無いようにする ③想いを共有していると情報共有の場が気づきの場となり、活動へとつながる」と岩吹さんは熱く語る。



【メッセージ】

- 地域それぞれ状況が違うので、市の取組み等はフィットしないことが多いが、少しアレンジすると一気に活動の幅が広がる。
- 地域が行う福祉活動は中間の取組み・途中経過に過ぎないが、専門職と住民の関わりの中で、地域を介して福祉をすると、より充実が安心につながる。